

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

大阪市立東粉浜小学校（大阪市）

## 【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を支えるルーブリックの共有」

クラウド上にルーブリックを共有することで、学びの自己調整を習慣化

## 5年 国語「和の文化を受け継ぐ」

## 事前準備として・・・

- ① 本文を一読し、単元目標を話し合っ決定
- ② 「単元のゴール」としてGoogle Classroomに共有
- ③ 毎時間の振り返り用にクラウド上にルーブリックを共有

## 児童の反応



単元のゴールは、「ALTの先生に日本の文化をわかりやすく伝える」だったね。一目で見て伝わるような資料を選んでいこう！

## 単元のゴールでは・・・

作成したスライドをもとに、ALTの先生へ伝える発表会を開きました。発表会后、個々の振り返りをスプレッドシートに記入する際は、「作り方の様子が写真と一緒に表に整理されていてわかりやすかった」など単元の目標に応じて焦点化された感想につながりました。



## 授業ではGoogle Classroomを効果的に活用

## 1 単元の目標をいつでも確認

友だちやALTの先生に、伝えたい内容が明確になるように伝える、スライドの構成と説明に必要な資料を検討する、という単元のゴールをクラウドで共有します。



## 2 スライド作成の指標として参照

単元の目標や、評価の視点をルーブリックとしていつでも確認することができるので、課題を明確にして学習を進めることができます。他の班のスライドを参照することもできるので、互いの成果物が見本となり、学習に見通しをもつこともできます。



## 3 振り返りによる自己調整

子どもたち一人一人の学びの振り返りを継続して行うことができました。

